ลมจากกรุงเทพฯ

バンコクの風

JSPS BANGKOK NEWSLETTER

2017-18 Vol.2

Vientiane

ビエンチャン（ラオス）

JSPS BANGKOK

CONTENTS

JSPS主催事業説明会の開催 01

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント 04

JSPS同窓会情報 27

センター活動記録 29

コラム 30

学術情報（2017年7月－9月） 32

巻頭言

センター長挨拶

バンコク研究連絡センターの活動報告書「バンコクの風」の２０１７年度第２号（２０１７年７－９月分）少し遅くなりましたが、発行の運びとなりました。この報告がカバーする期間は、バンコクセンターにとって一年で最も多忙なときで、特に今年は日本タイ修好１３０周年ということで、様々な事業が展開されました。詳しくは次ページからの報告をご覧頂ければと思います。

保革逆転なるかと思われた先の衆議院選挙、終わって見れば野党の分裂という「敵失」のおかげ（？）で、安倍政権を支える与党で３分２を確保する結果になりました。その後のトランプ米大統領の訪日の折には、アメリカ製の武器弾薬を大量に購入する約束を取り付けられたり、自民党は憲法改正にまっしぐらに進んでいたり、粉臭い雰囲気が日本を覆っているように思えてしまう。

昨年１０月に逝去されたブミポン前国王の火葬の儀が１０月２６日に執り行われ、その翌日からは、街中を歩く人々の服装も白や黒からカラフルな色彩になってきました。ある意味うきうきしたくなるような今のタイの雰囲気の中にいて、「憂国の士」を気どるわけではないですが、「いつか来た道」へは決して行かせないよう、自国のこれからの動きを目も心も大きく開けて敏感に感じていこうと思う今日このごろです。

２０１７年１２月吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長

山　下　邦　明

JSPS 主催事業説明会の開催

バンコク研究連絡センターは、タイを中心に担当国の大学等高等教育や研究機関を訪問し、JSPS 事業説明会を行っています。当センターが訪れた機関の紹介と事業説明会の様子をお伝えします。

フィリピン・セントラル・ルザン州立大学を表敬訪問及び JSPS 事業説明会を実施（7 月 11 日）

山下センター長と Tereso A. Abella 学長を囲んで

セントラル・ルザン州立大学にて JSPS 事業説明会を実施しました。同大学はフィリピン・マニラの北 150 キロメートルのルソン島にある州立大学で、1907 年に創設されました。

事業説明会に先立ち、前日の 7 月 10 日には Tereso A. Abella 学長及び Melissa E. Agulto 副学長を表敬訪問した後、Mushroom Center 他、学内研究施設をご案内いただきました。

事業説明会には約 50 名が参加し、JSPS フィリピン同窓会メンバーでもある Tereso A. Abella 学長の開会の挨拶で事業説明会がスタートしました。続いて山下センター長、古屋副センター長及び土肥国際協力員が JSPS の概要と国際事業について紹介を行いました。

Dr. Renato G. Reyes の講演

Dr. Elmer G. Bautista の講演

引き続き、JSPS フィリピン同窓会の事務局長であるセントラル・ルザン州立大学の Dr. Renato G. Reyes から、JSPS のフェローとしての日本での経験について、また国際稲研究所（International Rice Research Institute）の Dr. Elmer G. Bautista から、論文博士号取得希望者に対する支援事業（RONPAKU）における東北大学での経験についてご講演いただきました。

その後の質疑応答では、招へい事業（外国人特別研究員）の申請条件や論博事業について会場から多くの質問があり、山下センター長、Dr. Renato G. Reyes 及び Dr. Elmer G. Bautista がそれぞれ回答をしました。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

講演の最後には、JSPS フィリピン同窓会の会長である、デラサール大学の Dr. Susan Gallardo(写真左)の挨拶で幕を閉じました。

2016 年 12 月にはデラサール大学で同窓会主催のワークショップを開催する等、同大学での JSPS 経験者増に向け、これまでも Dr. Susan Gallardo 会長、Dr. Renato G. Reyes 事務局長が積極的に広報活動を展開してくださっています。

その効果もあって、今回の事業説明会では、非常に活発な意見交換が行われました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/07/11/5313/)

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

JSPS 主催事業説明会の開催

ブラパー大学にて JSPS 事業説明会を実施（9 月 8 日）

タイ南東部チョンブリー県に位置する国立大学のブラパー大学において、JSPS 事業説明会を実施しました。同大学での事業説明会は昨年度に引き続き、2 回目の 開催となります。

1955 年に創設されたバンセン教育専門学校を前身とした同大学は、現在は学部・大学院合わせて約 40,000 名の学生が在学し、タイでも上位の国立大学として高い評価を受けています。説明会は Phonchai Chai-in 国際センター長（写真左・中央）の挨拶で始まりました。記念写真撮影後、古屋副センター長が感謝の言葉を述べるとともに JSPS の概要を説明し、土肥国際協力員及び斉藤国際協力員が JSPS 国際事業の説明を行いました。

続いて、JSPS 事業経験者で JAAT 会員でもある Dr. Srirat Lormphongs（写真左）及び Dr. Khwanruan Srinui に、申請手続きや日本での研究活動の様子などを具体的にお話しいただきました。

Dr. Srirat は、論文博士号取得希望者に対する支援事業（RONPAKU）を通じて和歌山県立医科大学で博士号を取得、Dr. Khwanruan（写真左下）も同様に、広島大学で博士号を取得されています。

両者ともにタイ語でプレゼンテーションをして下さったため、参加者はより深い理解が得られたようです。説明会には、若手研究者からベテラン研究者まで 20 名程度の参加がありました。

質疑応答では、論博事業や外国人研究者招へい事業を中心に多くの質問があり、関心の高さが伺える有意義な説明会となりました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ： http://jsps-th.org/2017/09/08/5569/ ）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

バンコク研究連絡センターでは、対応機関であるタイ学術会議（NRCT）と学術セミナーを共催しているほか、タイ国内外で実施される国際的な学術シンポジウムやイベントに積極的に参加し、ASEAN 地域の最先端の学術情報の収集に努めています。

第 5 回 JSPS フィリピン同窓会（JAAP）シンポジウム及び同窓会総会の開催（7 月 12 日）

論文博士号取得希望者に対する支援事業（RONPAKU）による博士号取得者と共に

フィリピン・トレード・トレーニングセンター（フィリピン・パサイ市）で第 5 回 JSPS フィリピン同窓会（JAAP）シンポジウム”Science and Technology towards Green Communities”が開催されました。

同シンポジウムは昨年に続き、フィリピン科技省（Department of Science and Technology: DOST）主催の科学技術広報イベント「科学技術週間（National Science and Technology Week: NSTW）」の一環として開催され、別会場では JAAP のブースも出展されました。

シンポジウムは、JAAP の Susan M. Gallardo 会長の開会の挨拶で始まり、続いて、在フィリピン日本大使館 田口利行専門調査員、当センター山下センター長から祝辞が述べられました。

同シンポジウムには、当センターがサポートしている地域の同窓会（タイ・バングラデシュ・ネパール・インドネシア）宛に JAAP から招待状が送られていましたが、残念ながら今回はどの同窓会からも出席が叶いませんでした。しかし JSPS ネパール同窓会（NJAA）の Rijan Bhakta Kayastha 会長、JSPS タイ同窓会（JAAT）の Danai Tiwawech から祝辞が届いていたため、JAAP 理事会の Renato Reyes 事務局長、Susan May F. Calumpang 副会長から各々紹介がありました。また、DOST の Leah J. Buendia 次官補から基調メッセージが紹介されました。

次に、2016 年度に JSPS の「論文博士号取得希望者に対する支援事業（RONPAKU）」を終え、学位を取得された 5 名について紹介がありました。そのうち Dr. Jason Maximino C. Ongpeng, Dr. Laura B. Fermo, Dr. Marc Lawrence J. Romero の出席者 3 名に対し、山下センター長からメダルが授与されました。

今回のシンポジウムでは、日本人研究者 2 名、フィリピン人研究者 1 名の基調講演が行われました。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

最初の基調講演は東京工業大学の阿部直也准教授（写真左）から”Exploration of the Necessary Conditions to Realize Green and Sustainable Communities”についてご講演頂きました。

阿部先生のご講演では持続可能な開発及び都市を考える上で重要な要因となる「コミュニティ」の世界的な都市化傾向について、またコミュニティが抱える問題が都市部と農村部で異なり、時代においても変化していく中で何を人々は望み、持続可能な社会としてシステムを構築できるか、日本での調査結果及びフィリピンのセブ島で実施しているランプ貸出プロジェクトの事例を紹介しながらお話し頂きました。

また、午前の部の最終講演として、北海道大学の船水尚行教授（写真左）から”Sanitation Value Chain: Its Concept and Element Technologies”と題しご講演頂きました。船水先生は日本のトイレの衛生システムが抱える問題を挙げながら、高齢化・少子化社会に対応した衛生システムのバリューチェーンが必要であること、開発途上国の衛生システムを考える上で、開発国が既に抱える問題を解消した、より現代的なシステムを構築すべきであること、衛生システムのバリューチェーンにおいては、これまでの排泄物を処理するという発想から人々に利益をもたらすような資源という思考でシステムを構築すべきである、といったお話しをユーモアを交えながらご説明頂きました。

午後の基調講演は、デラサール大学の Dr. Jonathan Dungca から、”Utilization of Sustainable Materials for Ground Stabilization”というテーマでご講演頂きました。都市化が進むフィリピンでは道路開発が進められており、供給可能な基盤材料の改良が必要不可欠であることから、利用する石灰石やその配合についての研究内容についてご紹介頂きました。

３つの基調講演終了後の質疑応答では、会場からそれぞれの先生に対して具体的な質問が数多くあがる等、大変な盛り上がりを見せていました。

基調講演後は、引き続き JAAP の同窓会総会が行われ、Susan M. Gallardo 会長から JAAP の活動報告がありました。また、JAAP では同窓会独自のアウトリーチ活動を積極的に展開しており、今回はアウトリーチ活動先の一つとして Quezon 州 Mulanay 市長の Hon. Joselito Ojeda 氏にお越し頂き、Mulanay 市の観光案内とともに同市での JAAP との活動について紹介がありました。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

続いて、山下センター長による JSPS 概要や国際事業についての紹介がありました。

総会の最後には、JSPS 国際事業経験者である Dr. Lerma Ocampo (2016 BRIDGE Fellowship Program)、Dr. Elmer Bautista (論文博士号取得希望者に対する支援事業)、Dr. Inocencio Buot, Jr (外国人招へい事業・外国人特別研究員)、Dr. Mary Donnabelle L. Balela (2016 HOPE fellow)から、それぞれの日本での体験談についてご紹介頂きました。

今回は JAAP メンバーをはじめ約 90 名の参加があり、終始活気のあるシンポジウムとなりました。

最後は JAAP の Susan Calumpang 副会長による閉会の挨拶でシンポジウムが締めくくられました。(写真左)

(JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/07/12/5330/)

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

Thailand Research Expo 2017 にて JSPS-NRCT-JAAT シンポジウムを主催（8 月 23 日～24 日）

日本からの講演者、佐渡島志郎大使、Marshal Prajin Juntong 副首相、Dr. Sirirurg Songsivilaim NRCT 事務局長を囲んで

Centara Grand Hotel and Bangkok Convention Centre にて JSPS-NRCT-JAAT シンポジウム「JAPAN Days」を開催しました。

同シンポジウムは、タイ学術会議（NRCT）が 2009 年より毎年開催している科学博 「Thailand Research Expo」（今年の Thailand Research Expo 2017 は 8 月 23 日から 27 日まで開催）期間中の特別シンポジウムとして開催されました。毎年 Expo 会場には多くの機関がブースを出展しているほか、タイ国内外の研究者による学術セミナーも行われています。

当センターは、Expo 初年度より毎年日本から講演者を招聘し、NRCT とセミナーを共催してきましたが、2017 年は日タイ修好 130 周年という記念の年であることから、JSPS、NRCT に加え JAAT（JSPS タイ同窓会）の 3 機関合同で「日本とタイの学術並びに科学技術交流・連携のあるべき姿を求めて」をテーマに「JAPAN Days」を開催する運びとなりました。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

Marshal Prajin Juntong 副首相

シンポジウムに先立ち、23 日午前には Thailand Research Expo2017 の開会式が NRCT 主催により盛大に開催されました。同開会式には、在タイ日本国大使館より佐渡島志郎大使にご臨席頂いた他、JAPAN Days の日本側講師 5 名及び JSPS から国際事業部 加藤 久参与並びに当センター職員等が出席しました。

開会式中には Marshal Prajin Juntong 副首相及び NRCT の Dr. Sirirurg Songsivilai 事務局長の講演が行われ、日タイ修好 130 周年並びに「JAPAN Days」についても言及がありました。

シンポジウム「JAPAN Days」は、午後から NRCT の Dr. Sirirurg Songsivilai 事務局長、在タイ日本国大使館の寺島史朗一等書記官及び JSPS 国際事業部の加藤久参与の挨拶で始まりました。

左から、加藤参与、寺島一等書記官、Dr. Songsivilai 事務局長

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

矢原教授による基調講演

続いて“Where are we from and where are we going? Perspective for a sustainable society”をテーマに九州大学の矢原哲一教授（写真左）に基調講演をしていただきました。

講演では、「どのようにより良い未来を創っていくか」について、これまでの人間の歴史に触れられながらお話いただきました。矢原先生は、現在は人類史上で最も良き時代だと思っているが、これを継続・発展させていくには“教育”が何よりも重要だとおっしゃっていらっしゃいました。

左から、Dr. Kittisak Sawanyawisuth（モデレーター）, Dr. Narongchai Akrasanee, Prof. Dr. Charnvit Kasetsiri, 吾郷眞一教授, 山田守教授

その後、“Past, Present and Future of Academic and Science collaboration between Thailand and Japan”をテーマに、日本側から立命館大学の吾郷眞一教授及び山口大学の山田守教授の２名、タイ側からタマサート大学の Prof. Dr. Charnvit Kasetsiri 及びコンケン大学の Dr. Narongchai Akrasanee の２名の講演者を招き、パネルディスカッションを実施しました。23 日の最後には、JAAT の Dr. Danai Tiwawech 会長から、JAAT 及び Executive Committee メンバーの紹介も交えた挨拶で締めくくりました。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

23 日のシンポジウム終了後には、NRCT 主催の夕食会「Dinner Talk」が開催されました。200 名を超える日タイ大学等学術関係者が参加した同夕食会は、NRCT の Dr. Sirirurg Songsivilaim 事務局長の挨拶で始まり、タイ側から元 NRCT 事務局長で現教育大臣アドバイザーの Prof. Soottiporn Chittmittrapap 及びタイ研究財団（TRF）理事の Prof. Suthipun Jitpimolmard、日本側から在タイ日本国大使館の福島秀夫次席公使の講演が、華やかに行われました。
参加者は夕食を囲みながら普段のシンポジウムとはまたひと味違った和やかな雰囲気の中、活発に交流を図っていらっしゃいました。

24 日午前は、日本側から近畿大学の秦哲也教授及び九州大学の Assoc. Prof. Dr. Ashir Ahmed の 2 名、タイ側からパンヤピワット経営大学の Dr. Paritud Bhandhubanyong 及びタマサート大学の Prof. Dr. Prapat Thepchatree の 2 名の講演者を招き“Trend of research collaboration between Japanese and Thai Universities”をテーマにパネルディスカッションを実施しました。前日のパネルディスカッション同様、講演者のみならず参加者からも多くの質問があがり、活発な議論が繰り広げられました。

左から、Dr. Kampanart Silva（モデレーター）, Assoc. Prof. Dr. Ashir Ahmed, Dr. Paritud Bhandhubanyong, Prof. Dr. Prapat Thepchatree, 秦哲也教授

24 日午後には今後の日タイ学術・科学技術交流連携に役立つ両国の公的資金提供団体等の紹介を行いました（団体等は以下の通り）。

・保健医療システム調査研究所（HSRI）
・タイ国立科学技術開発庁（NSTDA）
・アセアン工学系高等教育ネットワーク（AUN/SEED-Net）
・日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点（JASTIP）
・科学技術振興機構（JST）
・日本学術振興会（JSPS）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

JSPS は、山下センター長より JSPS 概要を説明するとともに、個人支援型国際交流事業である「外国人特別研究員」及び「論文博士号取得希望者に対する支援事業（RONPAKU)」、機関支援型国際交流事業の「二国間交流事業」及び「研究拠点形成事業」について紹介しました。これまでも当センターは JST や JASTIP といった日本の公的資金提供団体と連携してガイダンスセミナーを開催してきましたが、今回のようなタイ側の公的資金提供団体まで拡大しての紹介は始めてであり、多くの参加者は自身の研究資金獲得のための参考とすべく熱心に各団体の支援事業を聞いていました。

最後に、主催者を代表して山下センター長より、全ての関係者への感謝の言葉で 2 日間にわたる「JAPAN Days」が締めくくられました。
2 日間でのべ 300 名を超える参加があり、会場内でも日タイ研究者の交流の様子を頻繁に目にすることが出来る等、日タイ修好 130 周年という節目にふさわしいシンポジウムとなりました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/08/24/5450/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

第 3 回 JSPS ネパール同窓会（NJAA）シンポジウムの開催（9 月 22 日）

ネパールのポカラで第 3 回 JSPS ネパール同窓会（NJAA）シンポジウム”Role of Greenhouse Technology to Enhance the Agricultural Production in Nepal” を開催しました。
シンポジウムは、NJAA の理事会メンバーである Dr. Nawa Raj Khatiwada が進行を務め、初めに以下 6 名の紹介が行われました。

・Prof. Dr. Mana Raj Kolachhapati （Registrar of Agriculture and Forestry University）
・Mr. Sharad Chandra Shrestha（Director, Regional Agriculture Directorate）
・Dr. Buddhi Ratna Khadge（Secretary, ネパール科学技術アカデミー（NAST））
・山下邦明センター長（JSPS バンコク研究連絡センター）
・東出 忠桐ユニット長（農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門 野菜生産システム研究領域 施設生産ユニット）
・Dr. Rijan Bhakta Kayastha（NJAA 会長）

左から：東出先生、Dr. Khadge、Dr. Kayastha 会長、Prof. Dr.Kolachhapati、Mr. Shrestha、山下センター長

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

続いて、NJAA の Ranjan Kumar Dahal 副会長がモデレータを務め、学術セッションが行われました。

まず初めに東出先生による"How crops change by environmental control? "と題した基調講演が行われました。(写真左)

東出先生の講演では、日本に 10 カ所ある次世代施設園芸拠点の現状について説明があり、トマト及びきゅうりの環境制御について、様々な事例が紹介されました。

続いて、NJAA の理事である Dr. Umed Kumar Pun から、"Status and way forward of greenhouse technology for enhancing agriculture production in Nepal"と題して講演が行われました。
(写真左)
講演では主にグリーンハウス(温室)を利用した生産システム及び多様な形態のグリーンハウスについて、ガーベラの栽培事例を用いて紹介が行われました。

質疑応答では、若手研究者や農業従事者から次々と手が挙がり、英語・ネパール語織り交ぜての質問がありました。東出先生は Dr. Pun の翻訳サポートの元、それぞれの質問に具体的に回答して下さいました。また専門外の質問には、会場内の NJAA メンバーや参加者も飛び入りで質問に答える等、活発な意見交換の場となりました。

次に、山下センター長が JSPS の概要や国際事業及びネパールとの交流実績について紹介を行いました。JSPS の国際事業は競争率が高いものの、今回のシンポジウムへの参加は日本とのネットワークを作る良い機会であり、諦めずに招へい事業や論文博士号取得希望者に対する支援事業(RONPAKU)に応募して欲しいと会場に呼びかけました。

引き続き、Mr. Sharad Chandra Shrestha、Dr. Buddhi Ratna Khadge、Prof. Dr. Mana Raj Kolachhapati から挨拶と今回の講演に対する感想が述べられました。また Dr. Kundan Lal Shrestha 事務局長から、講演者・参加者・サポートスタッフに対しての御礼の言葉が述べられました。

シンポジウムは、Dr. Kayastha 会長の挨拶で閉幕となりました。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

今回は研究者や農業従事者等を含む約１００名の参加があり、非常に活気のあるシンポジウムとなりました。また、講演後も日本での研究を希望する若手研究者から多数の質問があり、ネパールの研究者らと交流を深めることができました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/09/22/5624/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

第 4 回 JASTIP シンポジウムに出席　（7 月 3 日～4 日）

日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点（JASTIP）主催の日・タイ修好 130 周年記念国際シンポジウム ”Biomass to Energy, Chemicals and Functional Materials” がタイ国立科学技術開発庁(NSTDA)で開催され、当センターも出席しました。

JASTIP は、オールジャパン、オール ASEAN による持続可能な開発に向けた研究のためのプラットフォームの構築を目指し、環境・エネルギー分野、生物資源・生物多様性分野、防災分野の 3 分野に焦点をあて、カウンターパートナーである NSTDA、インドネシア科学院(LIPI)、マレーシア日本国際工科院（MJIIT）に各々の共同研究拠点を設置し、日 ASEAN の関係者と共同研究を推進しています。

シンポジウムは、駐タイ日本国大使の佐渡島志郎大使（写真左）らの挨拶で始まり、続いて、JASTIP プロジェクトリーダーである京都大学河野泰之教授による JASTIP 概要説明が行われました。

その後 2 日間に渡り、ASEAN と国際共同研究を行っている多くの研究者から、今回のシンポジウムのテーマである「環境・エネルギー分野と生物資源・生物多様性分野にまたがるバイオリファイナリー研究」に関する ASEAN での取り組み、活動状況・成果、今後の展望について紹介がありました。また、NSTDA、LIPI、そして、バイオリファイナリーに関連する企業からもバイオリファイナリー研究や事業活動について紹介がありました。

シンポジウム 2 日目には、このような研究の研究者交流をサポートするべく、日本のファンディング機関からのプログラム紹介時間が設けられ、当センターからも山下センター長が JSPS 国際事業の説明を実施しました。

会場には、日本及びタイを含む ASEAN 各国からの研究者が多数参加しており、皆活発に交流を図っていました。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

また、今回のシンポジウムには研究者によるポスタープレゼンテーションブースや日本のファンディング機関及びバイオリファイナリー関連企業の紹介ブースも設けられ、当センターもブースで紹介を行いました。ブースには、シンポジウムに参加した研究者等に多数お立ち寄りいただき、JSPS 国際事業及び当センターの活動について改めて知ってもらうことができました。

なお、今回の参加者の中には JSPS インドネシア同窓会（JAAI）会員も複数参加しており、他の研究者同様、当センターのブースにお越し頂き意見交換を行うことが出来ました。

左から、土肥国際協力員、古屋副センター長、山下センター長、Dr. Puspita Lisdiyanti（JAAI 理事）、Dr. Wahyu Dwianto（JAAI 理事）

左から、古屋副センター長、山下センター長、佐渡島大使、斉藤国際協力員

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/07/04/5292/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

在フィリピン日本国大使館を表敬訪問（7 月 13 日）

JSPS フィリピン同窓会（JAAP）の Susan M. Gallardo 会長とともに、在フィリピン日本国大使館を表敬訪問しました。
前日の 12 日に開催された JAAP のシンポジウムにおいては、在フィリピン日本国大使館から、田口利行専門調査員にご出席頂きご挨拶頂きましたが、今回の訪問で田口専門調査員に改めて JSPS の国際事業や JAAP の活動状況等について説明しました。

田口専門調査員からは、フィリピンでは、奨学金がなければ日本に留学することがほぼ不可能であり、奨学金のプログラムがあっても、その情報を入手できていない状況であると説明がありました。また、フィリピンには日本の大学のオフィスが少なく、日本の大学や日本留学についての情報が得ることが難しいため、大使館で把握している国費留学生経験者のネットワークだけではなく、JSPS 事業並びに JICA プログラムの経験者や、私費留学生等も含めた元日本留学生のネットワーク（PHILFEJA）を今後積極的に活用したいとのお話がありました。
その後も日本とフィリピンの関係をさらに強化する取り組みや支援等について意見交換を実施する等、改めて大使館との連携強化の重要性を再認識いたしました。
当センターでは毎年、フィリピンの大学において事業説明会を実施しており、今後とも大使館との連携を強化しつつ、フィリピンの大学における研究活動の推進に貢献していきたいと思います。

左から、古屋副センター長、山下センター長、Susan M. Gallardo 会長、在フィリピン日本国大使館　田口利行専門調査員、土肥国際協力員

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/07/13/5344/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

Asia Link Symposium in Bangkok（チュラロンコン大学ー名古屋大学学術交流協定 25 周年記念シンポジウム）に参加（8 月 3 日）

名古屋大学とチュラロンコン大学（タイ王国・バンコク）は、学術交流協定締結 25 周年、チュラロンコン大学創立 100 周年、日本・タイ修好 130 周年を記念して、「アジアの未来を担う産業人材の育成」をテーマに合同シンポジウムを開催され、午前中のプログラムに山下センター長、古屋副センター長、土肥国際協力員が参加いたしました。

オープニングセレモニーでは、名古屋大学松尾清一総長、チュラロンコン大学ポムトン・マクランナ　アユタヤ副学長が挨拶を行い、名古屋大学とタイの大学の長い連携の歴史に言及され、今後も ASEAN 地域の大学と名古屋大学の研究者及び学生の交流を促進していきたいと述べられました。

続けて、在タイ日本国大使館小林茂紀広報文化部長から来賓挨拶が行われ、バンコクを訪れる日本人は年々増えており、また多くの日本の大学がタイで活発に活動しており、大変喜ばしいことであると述べられていました。

左端：山下センター長、真ん中：松尾総長、ポムトン副学長

基調講演では、National Science Technology and Innovation Policy Office から、「タイの科学技術政策と国際連携」について、タイが長期的に目指すべき経済社会のビジョンとして示した「タイランド 4.0（Thailand 4.0）」を元に、タイの科学技術政策の現状と課題、また国際連携についての問題点等をわかりやすく紹介されていました。

続けて、名古屋大学未来社会創造機構モビリティ領域の招へい教員である柳井正史氏から、「欧州オランダにみる産官学連携による戦略的オープンイノベーションキャンパス構想」と題して講演がありました。タイとオランダは、それぞれ東南アジアとヨーロッパの中心に位置し、交通・流通の面でも地域の拠点となっているなどの共通点があるという話から講演は始まりました。その後はオープンイノベーションキャンパス構想として、オランダでいかに大学や研究機関、企業が連携をしているか、研究と評価をどのようにスピードアップしているのか、どのように自動車産業を活性化させているのか、について、オランダでの成功例をテンポ良くご紹介されていました。

シンポジウム会場のロビーにおいては、名古屋大学が採択されている JSPS の研究拠点形成事業のポスター展示が行われており、ポスターの前でたくさんの研究者が熱心に意見交換をされていました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/08/03/5386/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

タイ科学技術博覧会 2017 への出展（8 月 18 日）

IMPACT Exhibition and Convention Center で開催中のタイ科学技術博覧会 2017（National Science and Technology Fair 2017）の開会式に参加しました。

同博覧会は国民の科学技術への関心を高めるためにタイ科学技術省（MOST）及びタイ国立博物館が毎年主催し、例年 100 万人以上が来場する、科学技術に関するタイ最大のイベントです。

今年は” Science, Technology and Innovation: Inspiring Creativity for Better Living and Sustainability for the Nation”をテーマに 8 月 17 日-27 日までの 11 日間に開催され、タイ国内の教育研究機関や企業のほか、インターナショナルパビリオンでは日本、アメリカ、イギリス、韓国、ドイツ、フィリピン、フランスが科学技術開発の成果を展示しています。

当センターも毎年日本パビリオン内において、JSPS 国際交流事業の紹介とともに、タイに事務所を設置する日本の大学等教育関係機関のポスターを掲示しています。

今年の日本パビリオンには以下 8 組織が各機関のプロジェクトやその活動状況について展示を行いました。

＜参加組織＞

・内閣府宇宙開発戦略推進事務局

・宇宙航空研究開発機構（JAXA）

・東京大学　宇宙・地理空間技術による革新的ソーシャルサービス・コンソーシアム（GESTISS）

・情報通信研究機構（NICT）

・科学技術振興機構（JST）

・国際農林水産業研究センター（JIRCAS）

・日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点（JASTIP）

・日本学術振興会（JSPS）バンコク研究連絡センター

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

開会式後には、MOST のアチャカ大臣及び在タイ日本国大使館の福島次席公使が日本パビリオンを視察されました。（アチャカ大臣（左から 5 番目）及び福島次席公使（左から 6 番目））

ポスター及び資料を提供頂いた大学等教育関係機関は下記の通り（五十音順）。

＜日本の大学（47 機関）＞

青山学院大学 / 秋田大学 / 大分大学 /大阪市立大学 / 大阪大学 / 金沢大学 / 関西大学 / 九州大学 / 京都大学 / 京都工芸繊維大学 / 高知大学 / 国立高等専門学校機構 / 静岡大学 / 芝浦工業大学 / 首都大学東京 / 上智大学 / 創価大学 / 拓殖大学 / 千葉大学 / 中央大学 / 電気通信大学 / 東亜大学 / 東海大学 / 東京大学 / 東京医科歯科大学 / 東京工業大学 / 東京国際大学 / 東京農工大学 / 東北大学 / 東洋大学 / 富山大学 / デジタルハリウッド大学 / 名古屋大学 / 奈良先端科学技術大学院大学 / 弘前大学 / 福井大学 / 福井工業大学 / 福岡工業大学 / 北海道情報大学 / 三重大学 / 宮崎大学 / 明治大学 / 名城大学 / 山口大学 / 横浜国立大学/ 立命館アジア太平洋大学(APU) / 早稲田大学

＜教育関係機関等（5 機関）＞

AUN/SEED-Net / e-ASIA / 日本学生支援機構(JASSO)タイ事務所 / 日本学術振興会(JSPS)バンコク研究連絡センター / 日本学術振興会タイ同窓会（JAAT）

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/08/18/5399/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

TAIST Tokyo Tech 10 周年記念イベントに出席（8 月 21 日）

東京工業大学とタイ国立科学技術開発庁（NSTDA）及びタイのトップクラスの大学とが共同で高度な知識を有する研究技術者・開発担当者を養成するプログラム「Thailand Advanced Institute of Science and Technology（TAIST）-Tokyo Tech」の 10 周年記念イベント”Towards Global Education and Research Collaboration for Thailand 4.0”に、山下センター長と古屋副センター長が出席しました。

同プログラムは、タイ政府からの要望により、理工系分野での高度な「ものつくり人材」の育成と研究開発のハブを目指して 2007 年に設立されました。主に、東工大は教員の派遣、あるいは遠隔配信による講義の提供を、NSTDA は施設と奨学金の提供を、タイの参加大学は修士号の授与を行うもので、現在までにキングモンクット工科大学ラカバン校並びにトンブリ校、タマサート大学、カセサート大学及びマヒドン大学が参加しています。

午後からの記念式典では NSTDA の Dr. Narong Sirilertworakul 長官、東京工業大学の三島良直学長からの挨拶があり、これからの TAIST-Tokyo Tech として、更なる教育の質向上や産業とアカデミアのコラボレーションの強化を図っていきたい、との話がありました。

また、科学技術省 Dr. Atchaka Sibunruang 大臣の代理で副事務次官の Mr. Somchai Tiamboonprasert の挨拶では、タイ東部経済回廊(Eastern Economic Corridor: EEC)の 1 プロジェクト、Eastern Economic Corridor of Innovation（EECi）についても言及がありました。

EECi はタイ科学技術省により提案されたサイエンスパーク開発プロジェクトで、NSTDA がその実施を担っており、NSTDA と東京工業大学との EECi における学術協定や EECi の 2 つのキャンパスの概要、民間・学術・研究機関・政府セクターを含めた 61 機関の連携について等の説明がありました。

以降には佐渡島志郎在タイ日本国大使の基調講演も行われる等、産学官あげての盛大な式典となっていました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/08/21/5412/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

国立六大学バンコク事務所開所式に出席（8 月 21 日）

キングモンクット工科大学トンブリ校（KMUTT）Knowledge Exchange for Innovation Center(KX)で開催された、国立六大学（千葉、新潟、金沢、岡山、長崎、熊本）バンコク事務所開所式に山下センター長と古屋副センター長が出席しました。

Six Universities Network/ International Education and Research System, Japan (SUN/SixERS)は、世界レベルの研究・高度人材育成により国内並びに国際活動への貢献を目的とした国立六大学からなるネットワークです。

同ネットワークは ASEAN University Network (AUN)と 2013 年に学生交流、インターンシップ等の連携推進を目的とした MoU を締結し、現在種々のプログラムを実行しています。

これらのプログラム及び AUN との交流促進のため、金沢大学が新設するバンコク事務所を国立六大学共用事務所として運用することとなり、今回の開所式が行われました。

開会式では、金沢大学山崎光悦学長の開式の辞に始まり、在タイ日本国大使館 小林茂紀広報部長の来賓祝辞の他、山崎学長、小林広報部長、KMUTT Sakarindr Bhumiratana 学長、AUN 事務局 Choltis Dhirathiti エグゼクティブディレクター、金沢大学 大谷吉生 副学長（国際担当）・国立六大学バンコク事務所長及び岡山大学 横井篤文 副理事（国際担当）（写真上）によるテープカットが行われるなど、華やかな式典となりました。

また、開会式後は国立六大学バンコク事務所が入っている KX ビル内を視察しました。同ビルではレンタルスペースとして民間企業にも場所を提供し、オープンスペースでは相互交流が可能な作りとなっています。同事務所もその一画にあり、今後の産学官での交流促進が期待されます。

夕方からは引き続き記念懇談会が催され、六大学の紹介プレゼンテーションや出席した関係機関の紹介が行われる等、日タイ大学及び高等教育機関の交流が和やかに行われました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/08/21/5416/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

ASEAN University Network（AUN）スタディーツアー「AUN - SUN/SixERS Study and Visit Programme 2017」の来訪（8 月 22 日）

ASEAN University Network と岡山大学・千葉大学・金沢大学・長崎大学が連携して実施しているスタディーツアー「AUN - SUN/SixERS Study and Visit Programme 2017」の参加者 15 名が、サーミットタワー10 階にオフィスを構える日本の独立行政法人 3 機関（当センター、日本学生支援機構（JASSO）及び国際交流基金（JF））を訪問し、各機関の概要説明を受けました。同ツアーの訪問は今回で 5 回目となります。

当センターからは、山下センター長が JSPS の概要やバンコクセンターの活動内容について紹介を行いました（写真左）。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/08/22/5428/）

第 1 回チュラロンコン大学海外留学フェアに参加（8 月 31 日）

タイ・バンコクのチュラロンコン大学で開催された「第 1 回チュラロンコン大学海外留学フェア」に参加しました。チュラロンコン大学は、1917 年に設立されたタイにおいて最も古い歴史を持つ権威ある大学です。本年は、創立 100 周年及び日タイ修好 130 周年の節目の年であり、この記念すべき年に、大学の国際化・グローバル化を推進させるべく海外留学フェアが開催されました。本フェアは、8 月 30 日・31 日の 2 日間開催され、世界中の大学がブース出展及びプレゼンテーションを実施し、大学紹介や留学案内を行っていました。

当センターもブース出展し、学生とともに参加している研究者を対象に「外国人研究者招へい事業」や「論文博士号取得希望者に対する支援事業（RONPAKU）」等の JSPS 国際交流事業を紹介しました。8 月 31 日午後には、山下センター長が参加者に向けてプレゼンテーションを行い、JSPS 概要及び国際交流事業を紹介しました。（写真右）両日ともに多くの来場があり、チュラロンコン大学の学生はもちろんのこと、日本から来られている大学関係者を含め、たくさんの方に JSPS 国際事業及び当センターの活動について知ってもらうことができました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/08/31/5504/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

第 12 回在タイ大学連絡会（JUNThai）に出席（9 月 4 日）

在タイ日本国大使館で第 12 回在タイ大学連絡会（JUNThai）が開催されました。今回は前日バンコクで開催されていた「JASSO 日本留学フェア（タイ）」に合わせて開催されたこともあり、多くの参加がありました。

第 1 部では、以下 5 つの講演が行われました。

・JASSO からのお知らせ
　宮井朋宏（留学生事業部留学生情報課・課長補佐）
・研究から交流へ－大分大学バンコクオフィスの取り組み－
　内田智久（大分大学医学部分子病理臨床・准教授）
・日本とタイの歯科医療事情について
　川口陽子（東京医科歯科大学健康推進歯学分野・教授）
・さくらサイエンスプログラムの紹介と実施事例
　伊藤宗太郎（JST 中国総合研究センター・副センター長）
・「EEC における人材育成協力」（FlexCampus 構想について）
　佐渡島志郎（タイ国特命全権大使）

【JASSO からのお知らせ】
JASSO 留学生事業部留学生情報課の宮井課長補佐から、2017 年 9 月 2 日、3 日にそれぞれチェンマイ、バンコクで開催された「JASSO 日本留学フェア（タイ）」の概要説明及び報告がありました。来場者数はチェンマイが 874 名、バンコクが 2,724 名と多くの来場があり、日本留学に対する関心の高さが伺え、次年度も 8 月末に同フェアの開催を予定しているとの報告がありました。

【研究から交流へ－大分大学バンコクオフィスの取り組み－】
大分大学医学部の内田准教授は、JSPS 国際事業「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」（2010 年-2012 年）を活用し、日本・タイでピロリ菌の国際共同研究を実施されています。これまでの研究でアジアのピロリ菌の病原性は国・地域で大きく異なることが分かったとのことでした。また、ピロリ菌研究をきっかけに 2015 年 8 月に設置した大分大学バンコクオフィスでは、研究だけでなく、医療人材育成や学生交流、さらには産学連携も推進させている等、オフィスでの取り組みについても紹介がありました。

【日本とタイの歯科医療事情について】
東京医科歯科大学の川口教授からは、「日本とタイの歯科医療事情について」、同大学タイ事務所での取り組みを交えながら説明がありました。川口先生は“帰国留学生は大学の財産”とおっしゃり、タイ事務所を設置しているチュラロンコン大学歯学部の Ph. D 取得教員のうち約半分が同大学で ph. D を取得されていることからも、そのことを大切にして交流を深めていることが伺えました。また、チュラロンコン大学との交流のきっかけとなったのは、JSPS 国際事業「拠点大学交流事業」（1996 年-2005 年）であったと、我々 JSPS にとって嬉しい紹介もありました。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

【さくらサイエンスプログラムの紹介と実施事例】

JST 中国総合研究センターの伊藤副所長から JST「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンス）」の概要について説明後、実際にこのプログラムを活用して日本に滞在した、泰日工業大学学生の Ms. Papada Jeemali（金沢工業大学のプログラム）及びタマサート大学歯学部教員の Ms. Sirima Kulvanich（新潟大学のプログラム）の 2 名から、日本での交流の様子について、写真を交えて紹介がありました。

【EEC における人材育成協力（FlexCampus 構想について）】

在タイ日本国大使館の佐渡島特命全権大使から、タイ東部経済回路（EEC）の人材育成協力として、日タイ FlexCampus 構想について説明がありました。日本の大学・研究機関等、オールジャパンで取り組みたいとのお考えから、参加校に向けて協力依頼がありました。

第 2 部の連絡会では、初めに議長及び書記の選出が行われ、現幹事校の中から議長に電気通信大学の高橋客員教授、書記に東京農工大学の河井特任教授がそれぞれ選出されました。

JUNThai 新メンバー校として、2017 年に当センターと同じサーミットタワーに事務所を設置した東京国際大学、2017 年 6 月にプリンスオブソンクラー大学プーケットキャンパスに事務所を開設した横浜国立大学及び 2017 年 5 月にカセサート大学カンペンセンキャンパスにタイリエゾンオフィスを開設した北海道大学が紹介されました。また、オブザーバー参加の東京経済大学、法政大学、東京大学、東京理科大学、島根大学、広島大学、JICA についても併せて紹介がありました。

次に時期幹事校について、東京農工大学に代わり福井大学、青山学院大学に代わり創価大学が幹事を務める旨の提案があり、承認されました。

最後に、奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）からカセサート大学にオフィスを設置したことを記念して 9 月 5 日に実施するシンポジウム「NAIST and Thai Universities for Research and Education Collaboration Symposium 2017」の紹介がありました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/08/21/5412/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）タイオフィス開設記念シンポジウムに出席（9 月 5 日）

バンコク市内で開催された奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）タイオフィス開設記念シンポジウム”NAIST and Thai Universities for Research and Education Collaboration Symposium 2017”に古屋副センター長が出席しました。

NAIST は 21 世紀社会の基盤となる情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学を担う 3 つの研究科で構成される学部を持たない新構想の国立大学院大学として 1911 年に設立されました。2013 年から文部科学省が開始した「研究大学強化促進事業」に選ばれた他、2014 年には「スーパーグローバル大学創成支援事業」においても、全国 37 機関の一つに選ばれています。

NAIST タイオフィスはインドネシアに続くアジア地域第 2 の教育研究連携拠点として、2017 年 3 月にカセサート大学工学部内に開設されました。

開設記念シンポジウムは垣内喜代三（きよみ）理事・副学長の挨拶で始まり、カセサート大学 Acting President の Dr. Chongrak Wachrinrat、タイ国立科学技術開発庁（NSTDA）Executive Vice President(Organization Strategy)の Dr. Chularat Tanprasert に加え、在タイ日本国大使館の福島秀夫次席公使による来賓挨拶がありました。

引き続き記念シンポジウムのセッションが開始され、教育推進機構教育連携部門国際展開マネージャー安藤幸特任講師による大学概要及び海外展開の紹介がありました。NAIST はタイではチュラロンコン大学、マヒドン大学及びカセサート大学との交換留学並びにインターンシップに取り組んでいらっしゃる他、世界 30 ヶ国約 220 名の留学生を有し 27 ヶ国 87 機関との学術協定を締結していらっしゃるそうです。

また、2017 年 8 月に発表した「先端科学技術研究科」についても説明があり、2018 年 4 月から既存の 3 研究科を 1 研究科に改組し、高度な専門性に加え社会・時代の要請に対応した先端科学技術全体を俯瞰できる人材を育成していくとのことです。

カセサート大学工学部准教授の Dr. Pattara Leelaprute からも引き続き NAIST との交換留学及びインターンシップ等プログラムの実施状況についてお話があり、交流の好事例についてユーモアを交えながら紹介いただきました。同シンポジウムは 5 つのセッションに分かれ、NAIST、カセサート大学に加えチュラロンコン大学関係者による講演も行われました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/09/05/5527/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

バンコク研究連絡センターは、日本学術振興会の国際交流事業で訪日経験のある研究者の組織である「JSPS 同窓会」の支援も積極的に行っており、現在管轄地域内に同窓会が組織されているタイ・バングラデシュ・フィリピン・ネパール・インドネシア JSPS 同窓会の活動支援、また、ベトナム・マレーシアでの新規同窓会設立に向けても支援を行っています。

2017 年度第 3 回 JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会に出席（8 月 22 日）

今年度第 3 回目の JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会を開催しました。理事会では、以下の点について確認、議論を行いました。理事会では、以下の点について確認、議論を行いました。

１．第 2 回 JAAT 理事会（2017 年 6 月 22 日開催）議事録の承認

２．Thailand Research Expo 2017 について

山下センター長から、Thailand Research Expo 2017 の期間中（8 月 23 日－8 月 27 日）に実施される JAPAN Days（8 月 23 日－8 月 24 日）のオープニングセレモニーについて、セレモニーはすべてタイ語にて行われるため、シンポジウムの講師に対して、モデレーターである Dr. Kittisak、Dr. Kampanart 及び Dr. Natthanon の 3 名にそれぞれ通訳をお願いしたい旨の依頼がありました。

３．JAAT 地方ワークショップ計画について

Dr. Kittisak から、来年度実施する JAAT 主催の地方大学でのワークショップについて、チェンマイ大学では、１２月１７日～１９日の３日間、またナレスワン大学については、１１月２日、３日に開催予定である旨の説明がありました。ただし、タイの会計年度が１０月１日付けで始まるため、現時点では予算が未確定であり、開催日程については変更になる可能性がある旨、合わせて説明がありました。

４．JAAT 会計報告

Danai 会長から、通帳の名義人について、新しい会計担当者への名義変更手続きが必要である旨の説明がありました。

５．JAAT Web サイトについて

Dr.Kampanart から、新しい Web サイトについて説明があり、議題案のとおり承認されました。

６．JAAT の担当について

Danai 会長から、JAAT の新しい担当について説明があり、議題案のとおり承認されました。

７．その他

Danai 会長から、同窓会の Directory については印刷を行わず、Web サイトに掲載することとした旨、説明がありました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/04/27/5097/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

2017 年度第 4 回 JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会に出席（9 月 28 日）

今年度第 4 回目の JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会を開催しました。理事会では、以下の点について確認、議論を行いました。

１．第 3 回 JAAT 理事会（2017 年 8 月 22 日開催）議事録の承認

２．JAAT 地方ワークショップ計画について

Dr. Kittisak から、JAAT 主催の地方大学でのワークショップについて、12 月 17 日～19 日にチェンマイ大学、11 月 2 日～3 日にナレスワン大学で開催を予定していたが、予算の関係で 2018 年 1 月及び 2 月に変更するとの報告がありました。

３．JAAT ソーシャルアクティビティついて

Dr. Porphant から、社会に知識を還元する JAAT の活動をアカデミア対象のセミナーに限定せず、ソーシャルアクティビティをしてはどうかとの提案がありました。タイ人のニーズを確認すること、予算はどうするか等、議論が行われ、次回の理事会で再考することになりました。

４．JAAT 会員名簿について

Dr. Pornpen から、Dr. Suratwadee の協力の下、JAAT 会員名簿を更新した旨の報告がありました。

５．JAAT Web サイトについて

Dr. Kampanart から、JAAT Web サイト更新の進捗状況と予算の必要性について説明があり、Web 更新に伴う予算が発生する場合は、都度 JAAT 理事会で確認することになりました。また JAAT Facebook についても作成することになりました。

６．JAAT 会計報告

報告予定であった Dr. Wichet に代わり、Dr. Danai 会長から、会計報告及び銀行口座変更について説明がありました。

７．その他

Dr. Porphant から、毎年 2 月に実施している JSPS、JAAT、NRCT による国際学術セミナーをバンコク以外で開催してはどうかとの提案がありました。参加者の利便性や日程を考慮する必要があるため、次回理事会で再考することになりました。

また、昨年度コンケン大学及びプリンスオブソンクラー大学で実施した JAAT 主催の地方大学でのワークショップについて、今年度は 10 月以降にタイの北部と中部でそれぞれ実施することを確認しました。次に JAAT ウェブサイトについて Dr. Kampanart より JAAT ホームページのデザインについて説明があり、議論の後、使用言語については、日本側及びタイ側の両方が分かるように英語で作成することを確認しました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2017/06/22/5271/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

センター活動記録

バンコク研究連絡センターの 2017 年 7 月から 9 月期のその他活動は以下のとおりです。センターにはタイ及び ASEAN 諸国との学術の国際交流を目的とし、日本やタイの研究者や高等教育関係者が訪れます。当センターは訪問者への現地での便宜供与や学術情報の交換・助言を行っています。詳しい活動記録は当センターウェブサイト（http://jsps-th.org/）に掲載しておりますのでご参照ください。

7 月

5 日	メーファールアン大学三宅夕姫講師の来訪
6 日	元 JSPS ロンドン研究連絡センター長平松幸三・京都大学名誉教授、京都大学 ASEAN 拠点柴山守所長の来訪
20 日	京都大学東南アジア地域研究研究所バンコク連絡事務所長生方史数准教授、下条尚志機関研究員の来訪
31 日	世界ユネスコ協会クラブ・センター連盟（WFUCA）Dhirendra Bhatnagar 代表の来訪

8 月

1 日	千葉大学高等教育研究機構織田雄一教授、国際企画課宮﨑早苗特任専門職員、白崎佳奈職員の来訪
7 日	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学国際協力開発部 Rob Turner 氏の来訪、就実大学経営学部三枝省三教授の来訪、九州大学システム情報科学府アシル・アハメッド准教授の来訪
22 日	明治大学　加藤久和教授、齋藤雅己専任講師の来訪、ASEAN University Network（AUN）スタディーツアー「AUN - SUN/SixERS Study and Visit Programme 2017」の来訪
25 日	JSPS 東京本部 簑輪知佳国際協力員の来訪
28 日	ナレスワン大学大学院 ASEAN 共同体研究科高橋勝幸講師の来訪、明治大学大六野耕作国際担当副学長、加藤久和教授、武田巧教授の来訪
30 日	福井大学産学官連携本部統括副部長竹本拓治准教授、アドミッションセンター入試企画部門長大久保貢教授、中切正人専任講師の来訪、情報通信研究機構（NICT）沼田尚道アジア連携センター長の来訪、大阪府立大学榎井克明学生センター学生課長、仲田くるみ国際・地域連携課地域推進室主事、雪野とし惠研究推進課研究推進グループ主事、山下剛教育推進課総務・企画グループ職員、大塚善弘学生課学務グループ職員の来訪、
31 日	岡山大学の神崎浩理事・副学長（国際担当）の来訪

9 月

1 日	マレーシア科学大学（USM）日本文化センター副田雅紀センター長の来訪
4 日	北海道情報大学経営情報学部の穴田有一教授の来訪、福井工業大学谷脇一弘教授と大学職員 6 名の来訪、広島大学国際室大田敏雄職員、徐瞳職員、医療政策室高畑智恵主任の来訪
6 日	理研シンガポール事務所津澤元一所長の来訪
12 日	大阪大学生物工学国際交流センター（ICBiotec）海外フィールドスタディ(S)の参加者（工学研究科大学院生 15 名）の来訪、アジア工科大学院（AIT）中村泰教授の来訪
14 日	関西大学西澤希久男教授の来訪
22 日	九州大学人間環境学研究院吉本圭一主幹教授、東洋大学国際地域学部芦沢真五教授, 筑波大学大学研究センター稲永由紀講師の来訪
26 日	京都大学東南アジア地域研究研究所バンコク連絡事務所長 和田理寛研究員の来訪

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

斉藤国際協力員タイに魅せられて　ーไม่เป็นไรー

タイでの生活も半年が過ぎました。外国に住めばその国の言葉はある程度身につくと思い込んでいたのは夢物語であったと気づき始めています。

最近の新聞記事に外国語をある程度習得するには最低 2,000 時間の学習が必要だということが書いてありました。2,000 時間ということは、毎日 1 時間勉強して、1 カ月 30 時間、1 年で 360 時間、あれ？毎日 1 時間勉強しても 6 年かかるではないですか！英語も発展途上の私ですが、せっかくタイに住んでいるのだから、タイ語もある程度できるようになろうと英語教室とともにタイ語教室にも通っていますが、週 2 回合計 2 時間、自習を含めておそらく月 10 数時間しかタイ語を勉強していない私がすぐに身につくはずがありません！

しかし、やろうという気持ちは大切です。半年経って、我々日本人にとっては非常にとっつきにくい「タイ文字」の学習を始めました。みなさんも知っているかもしれない「サワッディー（こんにちは）」、「コップン（ありがとう）」をタイ文字にすると「สวัสดี」、「ขอบคุณ」こうなります。

それでは、「ไม่เป็นไร」これは何と読むでしょうか。そう、“マイペンライ”です。今回はこの”useful word”であり、タイ人の精神を知るのに必ず必要なマイペンライを紹介したいと思います。

このマイペンライという言葉は、意味はまったく違うのですが、日本人にとっての「よろしくお願いします」みたいに様々な場面で使われています。我々にとって「よろしくお願いします」は魔法の言葉です。名刺交換の際に「よろしくお願いします」、メールでは最後に必ず「よろしくお願いします」、いったい何を「よろしくお願いします」なのか分からない場合でもとりあえず使います。

では、マイペンライがどういう意味かといいますと、「大丈夫、気にしないで、どいうたしまして」のような意味です。例えば、あなたがよそ見をしていて、ある人に肩がぶつかったとします。そうすると、あなたは「すみません（コートート）」と言います。するとぶつかられた人は「マイペンライ（大丈夫、気にしないで）」と言うでしょう。

次の例を示します。あなたとタイ人がどこかで待ち合わせをしていました。日本人のあなたはきっと待ち合わせの 5 分前にその場所に到着するでしょう。しかし、タイ人は 1 時間も遅れて来てしまいました。先ほどの例でいくと、遅れてきたタイ人は「すみません（コートート）、渋滞していました。」と言ってくれて、心の広いあなたは「マイペンライ（大丈夫、気にしないで）」と言うことでしょう。

しかし、この例の回答は次のようになります。遅れてきたタイ人はこう言います。「渋滞していたよ（電車で来ているのに）。マイペンライ。」日本人のあなたはきっと「遅れて来てマイペンライ？こっちは集合時間 5 分前に来て待っているんだよ！（怒）」と思うでしょう。

私の実体験を挙げると、現地スタッフに朝一番で「今日この支払をお願いします」と伝えました。するといつまで経っても支払いに行ってくれません。銀行窓口が閉まりそうなので、「支払いはまだですか？」と聞くと「マイペンライ、明日行くよ」と言います。私としては、支払い後の事務処理もあるので、早めに渡して早く行ってもらうつもりでした。しかし、現地スタッフは支払い期限もまだ先だし、払えばオッケーという感じでしょう。（ここは日本ではありません。キチンと要望を伝えていない私がいけなかったと思いました。）

我々日本人はきちっと、真面目に、言わなくても推測して、「あ・うんの呼吸」でというような文化で育ってきていますが、きっとこの感覚はタイ人だけではなく、世界中どこの国の人も持っていません。ちゃんと伝えないと分かってもらえません。タイ人は困ったら、全て「マイペンライ」で済ます。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

これが useful word たる所以です。きっちりしている日本人からすると、この適当さがイライラするんですね。

しかし、タイ人もしっかり仕事をします。日本人とは仕事やその期限等に対する考え方が違うだけです。そして、タイ人は総じて日本人より楽しそうです。日本人は疲れています。（東京の通勤電車は負のオーラでいっぱいでした。）

日本人は、非常に真面目で綿密で、群れる人種です。故に群れて自分と違う考え方の人をなかなか受け入れようとはしません。どう受け入れたらよいか分かりません。タイ人は、程よく真面目、サバイ（穏やかで快適、楽、気持ちいい）大好き、そして、人は気にせず楽しんでいます。

「人生 100 年時代」と言われている昨今、最初から完璧を放棄するのは良くないですが、完璧を目指して自分の時間を無くし、イライラするより、全体を俯瞰して、抜くところは抜いて、タイ人を見習って“マイペンライ”と人生楽しく生きようと思います。そうすれば、全てにおいて満たされている日本で最先端医療に頼らず健康で長生きができると信じています。

（記事　国際協力員　斉藤　康平）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

■財政難にあえぐ学校　更なる援助を求める

教育省は、教育の不平等を減らすために、状況の良くない 5,000 校の学校を支援するため予算を倍増する計画である。Teerakiat Jareonsettasin 教育大臣は、教育の質の点で遅れをとっており、そして教育省によって“ICU スクール”と分類される全国の公立の学校について、今年度の予算である 5 億バーツから、来年度は 10 億バーツに予算を増額する計画であると昨日発表した。

Teerakiat 大臣によると、ICU スクールとは「集中治療」が必要な状態にある学校のことである。これらの学校のほとんどが教師が 1 人しか在籍しておらず、生徒に全教科を教えることが求められており、これらの生徒は自分の教科書や文房具を持っておらず、また貧しさから昼食を買うことができない場合もある。合計 30,000 の公立の小学校と高校のうち、「緊急かつ本当に助け」を必要とするこのカテゴリには約 5,000 校が含まれている。「これは緊急の課題である。我々はすでに今年いくつかの学校を支援し、来年までにはこれらの学校のすべての状況を改善できることを願っている」

Teerakiat 大臣は、本当に支援が必要な人たちを支援することを目標としているが、農村部の学校と都市部の学校とでは、格差が広がり続けており、そしてピラミッドの頂点にいるごく一部の生徒たちが優遇されるこの欠陥のある予算システムのため、未だに解決法が見つかっていないと語った。「この傾向を変えていくのは非常に大きな仕事になるだろうが、格差を縮めるためには行う必要がある」と彼は語った。大臣は、彼の「ICU スクール」プロジェクトは、非常に有意義な改革の始まりである、と語った。「政府が教育分野に関して地方のコミュニティ支援を開始し、教員の雇用に投資すれば、必ず改善がなされるであろうと私は信じている。「今年、私たちの努力が成功すれば、より多くの学校にこれらの取組を拡充する」と彼は語った。

（2017 年 7 月 6 日　Bangkok Post 紙）

■無償教育のための予算　未執行のまま

政府の“無償教育イニシアティブ”として投入されている国家予算の４０億バーツのうち、２０％に相当する額が、学校で未使用のまま残っていることがある研究で明らかになった。

「それは恐らく学校が予算を効率良く管理するための適切な能力に欠けており、省庁からの役人たちが学校をチェックするのもたった年に 1 度だけだからだ」とタマサート大学の Chaiyuth Punyasavatsut 准教授は昨日こう述べた。

同大学は、タイ教育省基礎教育局（Obec）及びユニセフと連携し、15 年にも渡って政府が提供してきた無償教育の政府プロジェクトの支出に関する研究に取り組み始めた。

このプロジェクトは、授業料、教科書、制服、学習教材、学力向上のために予算を割り当てることにより、無償教育を提供している。Obec 事務局副長の Narong Paewpolsong 氏は、このプロジェクトには 620 万人の学生が含まれていると述べた。

全国の 250 の学校で実施されたこの調査では、国の支出に関連するいくつかの問題が明らかとなった。「教科書のための予算は、新学期が始まってから約 24 日後に執行が可能となる。学校では学期の始まりからかなり遅れて教科書が配布され、最初の学期開始からは 17 日後、2 学期からは平均して 37 日後になってようやく配布されている」と Chaiyuth 氏は述べている。同氏は、2 学期の終わりまでで、このプロジェクトの予算の残額 82 億バーツが学校に残されていると付け加えた。Obec は、学校から提供される情報に基づいてその予算を割り当てている、と彼は述べた。Chaiyuth 氏は、「チェックアンドバランスの機能が不十分であり、倫理的な問題が起こっている。」と述べた。

この研究では、より透明性を高めるため学校が地域コミュニティに対して、予算と学生の実績に関する情報を公開することを推奨している。Chaiyuth 氏は、全てを網羅した教育情報データベースが存在しないことは、これらの予算の問題と存在しない学生名簿が使用されていることが原因だと述べた。

これに関連して、Prayut Chan-o-cha 首相が、教育部門がかつて統合された IT システムを保持していなかった時、学生数の把握に問題があったと訴えていた。首相は昨日、教育改革委員会に出席した後「学生はすでに新しい学校に移籍しているかもしれないが、元の学校ではいまだに彼らの名前を名簿に残し、予算要求のために使っている」と発言した。

新憲法の下で設立された委員会は、国の教育部門の改革を一任されている。 Prayut 首相は、教師の能力、教育方法、学習、テスト方法等、教育を実施する上で問題が山積していると語った。「予算の使い方には注意を払わなければならない。我々は予算がどのように使われ、何のためのものであるのか、明確にする必要がある。また教育の予算計画を立てる際に、所在不明の学生がいるのであれば、それを確認する必要がある」と述べた。

Prayut 首相はまた、教育改革が 1 年以内、もしくは在任中に具体的な成果をもたらすことを期待していると述べた。首相は、優先順位は構造上の見直しと重要な問題に向かうべきだと述べた。「改革の他の部分は、国の教育マスタープランの中に規定されるべきである」と語った。

（2017 年 7 月 20 日　The Nation 紙）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

■国は学生のために「ビックデータ」を採掘する

教育省は、「ビッグデータ」に数億バーツを投資する計画を発表した。このシステムには、異なるデータ管理技術と実践で得たデータを取り入れており、リアルタイムで複数のケースを分析する機能を提供し、国が直面している教育と学習の問題に対して、より良い解決策を得ることができる。

Chaipreuk Serirak 教育省次官は、教育省としては、さまざまなフォーマットで保存された大量の構造化・非構造化データの恩恵を受け、ビッグデータ管理システムが、機関や学校、教育関係者の助けになることを期待しているとしている。

Chaipreuk 次官によると、この新しい技術は、教育関係者や学校が学生の行動、テスト結果、退学率、キャリア開発の動向、現代の教育ニーズなどを分析するのに役立つ。

ビッグデータを用いれば、学生が質問に答えるためにどれくらいの時間を要し、どのソースを使うのか、どの質問をスキップするのか、どのような方法が効果的なのか等、学生の行動をモニターすることが可能になる。さらに、ビッグデータは、学生のタイムテーブルを確認し、欠席を記録し、リアルタイムでそのパフォーマンスと進歩に関するその他の情報を自動的に提供することも可能だ。

Chaipreuk 次官は、多くのデータはすでにオンラインで保存されており、教育省の統計分析に使用されているが、更新は未だ年に 2 回しか行われておらず、ほとんどのデータバンクは相互接続されていないと述べた。「しかしビッグデータでは、すべての統計をリアルタイムで更新し監視することができるため、教育省は、学校や学生の絶えず変化するニーズに対応できるサービスを提供できるようになる」と述べた。

次官は、教育システム内でビッグデータを使用することの主な利点は、学生の成績を向上させることであると語った。Chaipreuk 次官は、教育省の官僚たちは、教育改革のために独立している委員会とこの計画について討議を重ね、ほぼこの投資計画に同意しているが、次回の会議では、さらに十分な審議が必要であるとしている。

（2017 年 7 月 24 日　Bangkok Post 紙）

■タイは科学教育の中心を目指す

科学、技術、工学、数学の 4 領域（STEM）において、この領域の地域リーダーとなるという国策の一環として、バンコクに新しい STEM 教育センターが開校した。

教育省の Teerakiat Jareonsettasin 教育大臣は、ジャカルタで開催された「第 49 回東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）評議会会議」の後、タイで 2 つの新しい SEAMEO 地域センターの設立を承認したと発表した。 1 つは STEM 教育センターであり、もう 1 つは「足るを知る経済」学習センターである。こういった趣旨のセンターの設立は、東南アジアでは初であると Teerakiat 大臣は指摘する。

「タイは、この地域で STEM 教育をリードする可能性を秘めている。我々はすでに新たな取り組みを開始するための施設も研究者も揃えているからだ」と述べた。

「さらに、STEM 教育のための地域センターを持つことで、タイ経済を大きく動かす STEM 教育の急速な発展が進み、多大な利益を受けることになるだろう。現在、SEAMEO 理事会はこの計画を承認している。これからはタイ政府がバンコクの新しいセンターに関して、設立と資金の責任を負う」と語った。

Teerakiat 大臣は、タイ政府が新しい STEM センターのために、すでに 5 年間で 2 億 5,000 万バーツを割り当てていると述べた。センターは、STEM 教育推進のための地域機関となるだろう。それは STEM 教育を改善するための方針を策定するだけでなく、加盟国と教育専門家間の情報や経験を共有するための中心機関となるだろう。

「STEM 教育をより発展させるために、我々は単独で活動することはできない。」と Teerakiat 大臣は述べた。「外部からの支援とともに、協働する必要がある。 ″このセンターは、地域で初の STEM 教育のための SEAMEO 地域センターである。というのも、マレーシアにある既存の科学教育センターは、学術的視点にのみ焦点を当てているからだ。我々の STEM 教育センターでは、科学技術の導入と適応を最優先に考えている。」

SEAMEO 評議会のゴーサインを受け、バンコクセンターは 1 年以内に開館する予定である。Teerakiat 大臣はまた、「足るを知る経済」哲学のために、SEAMEO センターを運営していく予定であると発表した。彼は Bhumibol Adulyadej 国王が後年、タイ国民の知識の父であり、タイはこの考え方を他国とも共有する国として位置付けられたと指摘した。

他の SEAMEO 地域センターとしては、インドネシアの早期幼児教育・育児センター、カンボジアの技術教育開発センター、ラオスのコミュニケーション教育センター等がある。一方、タイは、SEAMEO 評議会の 2 年の任期を終えると、インドネシアに SEAMEO 評議会の理事を引き継ぐことになっている。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

次の議長となるインドネシアの Muhadjir Effendy 教育大臣は、次の優先課題として、教育を通しての「持続可能な開発」を確保することを挙げている。評議会は、すべての人がより良い生活を送ることを目指して継続する。 「我々はすべての人々のために質の高い教育を保証し、生涯教育を推進する計画がある」と大臣は語った。 「インドネシアは、SEAMEO の使命を全面的に支持し、教育を通じて地域の皆様により良い未来を創造することを約束する。」

（2017 年 7 月 26 日　The Nation 紙）

■親の要求の中で学校が利益を上げる

教育専門家によれば、タイはカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムの学生たちにとって、比較的授業料が安いこと、インターナショナルスクールの質が高いことから、教育の地域拠点になる可能性を秘めている。

Denla British School の部長である Toryos Pndejpong 氏は、メコン圏と中国の多くの富裕層は、彼らの子どもには海外で教育を受けさせようと考えており、タイはそのリストの上位にいる、としている。

タイは友好的な国であり、メコン圏の中央に位置し、容易にアクセス可能であり、また様々なカリキュラムを提供していることから、国際的な教育拠点としてはかなりの可能性がある。タイのインターナショナルスクールに在籍している外国人留学生の数は、ここ数年で着実に増加しており、この傾向は今後も続く可能性が高い。

中国、ミャンマー、ラオスには、質の高いインターナショナルスクールがまだ少なくないため、タイの教育機関にとっては大きな市場となっている。タイには現在、全国に 170 以上のインターナショナルスクールがあり、東南アジアの中では最も数が多い。

近隣国からの留学生がタイのインターナショナルスクールに入学するだけでなく、最近では出生率の低下もあって、タイの学生もインターナショナルスクールに入学するケースが増えている。これは、親たちが数少ない自分たちの子供のために、教育に投資する余裕があるということだ。

タイの今の親たちは、1 人か 2 人しか子供を持たないため、幼少期の頃から最高の教育を提供する学校を探すことができ、より明るい未来が保証されるよう、教育に資金を費やす。現在、インターナショナルスクールにおける外国人の割合は低いが、この割合は 5 年以内に劇的に増加すると予想されており、それまでの間に学生寮を建設することを計画している学校もある。

タイのインターナショナルスクールの授業料は、マレーシアやシンガポールの学校の授業料より安く、その一方でタイのインターナショナルスクールの教育水準は、英国や米国に遜色ない。したがって、子供たちを授業料が 50%以上も高い英国の寄宿学校に送るのと比較して、タイのインターナショナルスクールは非常に価値があるものだ。

Wu 氏は、昨年、Bromsgrove 校では、北京語を話す学生の数が増えた、と語った。学校には 10 人以上の中国人留学生がいて、その数は増える見込みである。最近の調査によると、タイの学生の 60%が、インターナショナルスクールで勉強したいと考えていることがわかった。しかし、実際に入学できているのは、わずか 3%だけだということだ。

（2017 年 7 月 31 日　Bangkok Post 紙）

■国立大学の理事 第 44 条の修正を与える

Prayut Chan-o-cha 首相は、タイの国立大学の理事として、外部の人間にも広く門戸を開くため、第 44 条を発令した。この動きは、訴訟に阻まれていた国立大学の理事・幹部の選定に関する問題を解決することを目的としている。

国家平和秩序評議会(NCPO)の首席でもある Prayut 首相は、暫定憲章から引き継がれた特別権限を用いて、この命令を発動し、昨日タイ国政府官報に掲載された。それは、先の暫定憲章第 44 条の発動を要求するものであり、それは 2017 年憲章第 265 条の下、未だに有効である。

2017 年憲章 37 令によれば、タイの国立大学は大学の理事の選定に関して多くの問題を抱えており、それが大学の管理・業務の遅延につながっている。このことが政府の教育改革努力に悪影響を及ぼしている、と首相は指摘する。

NCPO は、大学運営の継続性と効率性を確保するために、大学に採用された公務員や職員ではない外部の人間を、大学の学長、副学長、学長補佐、学部長等に任命することを許可している。

今回の発令は、この発令が有効となる以前からすでに上記の職にあったものについても適用される。また発令が有効になった際の選考過程にあった候補者にも適用される。

この発令によれば、候補者の資格基準と必要な禁止事項に変更はない。この点について、国立大学の公務員および各大学の設置に関する法律について、すでに定められている規則が支持される見込みとなっている。

（2017 年 8 月 9 日　Bangkok Post 紙）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

■大学が災害管理に役立つ技術ツールを発表

Thammasat 大学の理工学部は、近年発生している北部・東北部の洪水等の自然災害に非常に役立つ２つの技術を公表した。ソーシャルメディアを利用して、被災者をリアルタイムで追跡して見つけることができるウェブサイト及び、古代遺跡等の災害被害を３D による検査が実施可能な無人機（ドローン）を教員と学生が開発した。両方ともすでに試験で成功を収めており、国や民間からのさらなる資金援助があれば、防災に役立つ可能性があると学部長である Pakorn Sermsuk 准教授が、先週 Thammasat 大学の Rangsit キャンパスで会見を行った。

コンピュータ科学部の Wanida Putthividhaya 講師は、これらのウェブサイトについては、地理情報システム（GIS）とクラウドソーシングサービス（GCaaS）の技術を用いていると述べた。この技術は、4 年生の学生４人が、災害被災者に関するデータを管理し、影響を受けた地域の地図をコンピュータ画面やスマートフォンに表示するために開発したものである。

このウェブサイトは、ツイッター上で助けを求める人々の声等、さまざまな情報源からの情報を取り込むことが可能である。ソーシャルメディアにアクセスできる人であれば、災害状況を説明するハッシュタグとともに、自分がいる位置情報を提供することによって、援助を要請することができると彼女は説明した。

救助隊は、被災状況や自分たちの任務について、常に更新されるウェブサイトを元に、リアルタイムで情報を入手することができると彼女は言った。このウェブサイトシステムを全国で適用するためには、地理情報を提供するという点で、国の機関の協力が必要だと彼女は付け加えた。

コンピュータ科学部のもう一人の講師である Pongsagon Vichitvejpaisal 氏は、このドローンは、古代遺跡と、他の重要な建物を高解像度の 3D 形式で撮影するプロジェクトと併用することができると語った。災害後に撮影された写真は、元の写真と比較され、土地の原状回復や復元の助けになると同氏は述べた。

環境科学部の Roj Khunanake 講師は、近年経験した北部や東北部での洪水による被害状況は、現時点ではまだはっきりとは判明していないと述べた。しかし、建物の浸水が長引いてしまうと、侵食、地盤沈下、木の膨張が引き起こされる可能性がある。

彼は、古代遺跡の復元に際して、必ず守らないといけない３つの原則として、古代遺跡の信憑性、アイデンティティ（自然や文化的側面での）、および周囲の環境における完全性を保存しなければならないと述べた。

（2017 年 8 月 15 日　The Nation 紙）

■日本と中国、タイでの主導権争い

日本からの 570 人の投資家、企業トップ、閣僚からなる大訪問団によるタイ訪問は、なぜ日本のビジネスマンそこまで熱心にタイに投資するのか、という疑問を投げかける。経済産業省（METI）の世耕弘成経済産業省が率いる訪問団は、東部経済回廊（EEC）にあるチョンブリ、ラヨーン、チャチョンサオを視察した。今回の訪問団に随行した日本のジャーナリストたちは、中国のタイにおける投資が日本の投資をしのぐかどうかについて、多くの質問を投げかけた。

この質問は、日本の投資家たちがが、タイでの外国直接投資（FDI）における突出した役割を失うことを懸念していることの表れである。中国は「一帯一路戦略」で積極的に投資を行い、中国と海外マーケットをより密接に結びつけるようになってきている。中国は、ラオス、タイ、インドネシアの高速鉄道への投資について合意を得ている。

中 国が ASEAN に対して積極的に動いているのは明らかである。中国の投資家の間では、巨大なオンライン取引プラットフォーム Alibaba の創設者である Jack Ma 氏が、世界中で中国の影響力を感じており、同社は EEC への投資意向を表明している。

中国は、世界最大の経済大国である米国に対して、アメリカが中国国内で生産された製品に貿易制限を課すと圧力をかけてきたため、積極的な行動を取り始めた。中国政府はまた、国営企業や民間投資家が米国の動きに対抗し、中国の影響力拡大戦略の一環として、海外への投資を増やすことを容易にした。

対照的に、日本の投資家は、数十億バーツの高速鉄道線への投資や Alibaba 社の活動に見合うような、大きな飛躍を未だに遂げていない。しかし、経済産業省（METI）の訪問団は、日本は中国の動きに対抗するために動き、また競争することを表明した。

世耕経産相は、安倍晋三首相のイニシアティブである「Connected Industries」について、日本は自動化、ロボティクス、製造業への IoT（モノのインターネット）の導入により、世界の生産拠点を更新しているところであると、強いメッセージを発出した。

日本は依然としてタイの最大の外国投資国であり、タイ銀行のデータによると、2016 年末までに FDI 総額の 36.2%を占め、次いでシンガポールと EU はそれぞれ 14.8%と 14.3%を占めている。「日本の投資家たちが、トップに留まる一方で、中国の投資家たちが増えてきている」とタイ投資委員会（BOI）の Hirunya Suchinai 事務局長は述べている。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

日本貿易振興機構の石越浩之会長は、最近の投資調査では、投資家の 53.6%が、EEC が戦略的に重要だと考えていること、78.6%が、EEC プロジェクトに対しては、投資優遇措置が効果的であると答えていることがわかった。中国と日本の直接投資は、EEC への投資をより魅力的なものにするだろう。

タイ開発研究所の研究者である Saowaruj Rattanakhamfu 氏は、この状況を楽観的に見ていると語った。彼女は、EEC は魅力的であると述べている。なぜなら、タイ政府はインフラ整備事業、空港、港湾、高速鉄道、高速道路を建設してタイを他の国と橋渡しをするからである。「難しいのは、政府がどのようにして投資家に効果的にワンストップサービスを提供できるのかという、人材や仕組みなどのソフトインフラかもしれない。どのようにしてタイ保健省食品医薬品局が、投資家のリクエストに応えて、ライセンス化の承認プロセスをスピードアップできるのかにかかっている」と彼女は述べた。

先週の内閣承認に引き続き、タイ政府は今週、EEC の実施をより促進させる EEC 法案を国会に提出する予定である。しかしながら、批評家たちは BOI による巨額の租税優遇措置には疑問を呈している。

国連貿易開発会議（BOA）のエコノミストである Padma Gehl Sampath 氏は、過剰な税制優遇措置は、タイ政府の歳入に影響を与える可能性があると主張している。

また他にも疑問が残っている。日本の投資家の中には、熟練した労働スキルの不足が懸念されている一方で、石毛理事長は、タイの自動車産業への投資の下降傾向を指摘しており、それに代わるものとして、ベトナム、フィリピン、マレーシアに新たな投資を行っている。BOI によると、外国人投資家たちは、今年上半期にタイへ投資した 1,190 億バーツについて、投資優遇措置を求めており、その額は、前年同期比で 5%増である。日本の投資家は、65.4 億バーツもの価値を、最初に投資すべき計画として位置付け、次いでシンガポールと中国はそれぞれ 153 億バーツと 71 億バーツを投資した。

（2017 年 9 月 25 日　The Nation 紙）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

日本学術振興会バンコク研究連絡センター　アクセス＆コンタクト

アクセス

高架鉄道（BTS）Asoke 駅、1 番出口から徒歩 5 分
地下鉄（MRT）Sukhumvit 駅、1 番出口から徒歩 5 分

コンタクト

1016/1, 10th floor, Serm-mit Tower, 159
Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand
Tel +66-2-661-6533　Fax +66-2-661-6535
Website: http://jsps-th.org　Email: jspsbkk@jsps-th.org
facebook: JSPSBangkok

■ 表紙写真紹介

King Anouvong statue、Vientiane

（ビエンチャン王国最後の王「アヌウォン王」像から　ビエンチャン、ラオス）

都として栄え始めたのは 16 世紀の半ばからで、それまでルアン・パバーンにあったラーンサーン王朝がここに遷都したのがきっかけ。樹木の多い街並みで、別名「森の都」とも。街並みは変化し続けているが、緑に包まれた穏やかさを保ち続けている。
写真は「アヌウォン王」像の足元を守る可愛い動物たち。

■ 編集後記

２０１７年度第２号となる「バンコクの風」をお届けいたします。今回も国際協力員（神戸大学）の土肥が編集後記を担当させて頂きます。

７月～９月は、バンコクセンターでは国内外を問わず、大きなイベントが続きました。タイでは Japan Days、フィリピンとネパールでは JSPS 同窓会のシンポジウムが開催され、いずれも大変な賑わいを見せました。

また、忘れてはならないのがプミポン前国王の国葬です。１０月２６日には火葬の儀がしめやかに執り行われ、国葬前からの泊まり込みを含め、タイ全土から３５万人もの人がお別れを言いにバンコクを訪れました。１０月２９日には国葬期間が終わり、約１年ぶりに喪が明けました。少しずつではありますが、見慣れた真っ黒い服装から、明るい服を着る人が増えたように思います。

２０１７年も残すところあと１ヶ月。タイでの暮らしも残り４ヶ月を切りました。次回の新年号でも引き続き、バンコクセンターのアクティブな活動をご報告させて頂きます！

（バンコク研究連絡センター 国際協力員　土肥　亜紀子）

JSPS バンコクニュースレター「バンコクの風」
監修：山下邦明　編集長：古屋寛子
編集担当：斉藤康平、土肥亜紀子

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.